

外務大臣男爵 田中 義一殿  
 極東有力家団ノ本邦視察計画ニ関スル件  
 先般来浦中ナリシ極東米穀国営「トラスト」「ダリリー  
 ス」社長「アンドレイ・イワノウイチ・カシカリョフ」氏  
 (前沿海県執行委員長タリ現ニ極執委員会及共産党幹部員  
 ノ一人ニシテ教育アリ温厚ノ紳士的人物)ハ昨二十六日当  
 地発途中米作関係事務打合ノ為メ「ニコリスク」立寄ノ予  
 定ニテ哈府ニ帰任シタルカ本官ト会谈ノ際同人ハ当地方米  
 作ニ関シテハ先進国タル貴国ニ学フヘキ事多々アリ既ニ昨

249 昭和2年9月27日 在ウラジオオストック渡辺総領事より  
 田中外務大臣宛  
 極東ソ連経済関係団休有力者の本邦視察  
 計画について  
 機密第三九八号 (10月1日接受)  
 昭和二年九月二十七日 在浦潮斯德  
 総領事 渡辺 理恵(印)

## 2 極東ソ連訪日団関係

リ残念ニタヘス  
 取ルヘキ方法ニ関シテハ、我政府カコノ決議  
 ヲナシタルハカリニツキ之ヲシテ再審セシム  
 ルニハ何等カ適當ノ辞柄無カルヘカラサルカ  
 之ヲ発見スルコト困難ナルヘシ、サレト本夕  
 チチエリン氏ト会见シテ相談シタル上申上ク  
 ヘシ  
 後 藤 本問題ヲコノ儘ニ決裂セシムレハ又永ク解決

ノ機ヲ失フヘク、他ノ大ナル問題モコノタメ  
 ニ議スルヲ得スソノ影響頗ル大ナリ、サレト  
 最早考慮ノ余地無シトナラハヤムナキ故其旨  
 東京ニ通知スルヨリ外無シ、タタ貴下カナホ  
 チチエリン氏ト凝議センコトヲ希望ス  
 カラハン 承知セリ、今夕カ若クハ明朝ソノ結果ヲ報ス  
 ヘシ

年来寺尾博士其他ノ専門家カ当方面来遊視察ノ縁故モアル  
 故予テ米作其他一般経済状況視察ノ為メ貴国訪問ノ希望ヲ  
 有シ居タルモ我社カ創業ノ際柄多忙ノ為メ果シ得サリシモ  
 此程来極執幹部間各部門ニ属スル有力家数名一団トナリ貴  
 国視察ノ計画アルニヨリ自分モ之レニ参加ノ事トナリ多分  
 十月中旬後渡航ノ事トナルヘク本計画ト入国並視察上ノ便  
 宜等ニ関シテハ在日労働大使側ヨリ貴国当局ニ交渉中ナル  
 筈ナルモ一行愈渡航ノ事トナラハ何分宜敷願フ云々申出タ  
 ルニヨリ本官ハ大使ヨリ交渉中ナラハ万遺漏ナカルヘキモ  
 若シ入国ニ関シ当方面ニテ手続ヲセラルル様ノ事ナラハ予  
 メ一行ノ氏名職業渡航目的視察上ノ希望事項等在哈府総領  
 事館乃至当方ニ詳細申出置カレ度然ラサレハ突然ノ申出ニ  
 テハ種々打合ニ手違ヒヲ来ス恐アルヘシト答ヘ置キタリ尚  
 本件ニ関シ其後本官カ前当地税関長タリシ「マシヤン」氏  
 ヲリ聞キタルニ同シク右計画ノ事実ナル事極東人民経済会  
 議々長「スタリコフ」ヲ初メ其他ノ有力家ハ多分訪日団ニ  
 参加スヘシト語り居タリ思フニ此種計画ハ兩三年来当地及

哈府ニ於テ計画サレタルモ何時モ彼等有力家カ内治ニ忙殺サレアルト経費及我方入国査証困難等ノ關係ニテ実現サレサリシカ最近勞農側ノ対日態度ハ本月二十二日付川角總領事代理發閣下宛機密第一一七号意見ノ如ク從來ニ比シ改

マリタルモノアリト被存ニ付露側ハ此機ヲ利用シ専門視察以外ニ本邦ニ対シ幾分親善善意ニ資セントスルモノナランカトモ被存果シテ然ラハ我方トシテハ昨年来殊ニ本夏來數團ノ各種視察團乃至最近倉知日露協會幹事來遊ニ対シ当地勞農官憲カ極力好意ヲ表シ有ラユル視察上ノ便宜ヲ提供シタルニ対シ帝國ニ於テモ彼等來遊者ニ対シ相当便宜ヲ与フル事ニ予メ御詮議置相成様希望ニ不堪右実現否ハ未明ナルモ報告旁申進ス  
写送付先 在露大使、在哈府總領事代理

250 昭和2年10月(8)日 在ハバロフスク川角總領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

極東ソ連有力者の本邦入国査証発給方願出に  
ついて

別電 昭和二年十月八日付在ハバロフスク川角總領事代理より田中外務大臣宛第一九五号

尚入国御許可ノ上ハ日露協會其他ト御打合ノ上充分便宜ヲ与ヘラルル様御配慮相煩度シ  
氏名職名等詳細別電ス  
浦潮ニ転電シ莫斯科ニ暗送セリ

(別電)  
ハバロフスク 10月8日前発  
本省 10月8日後着

至急

第一九五号

往電第一九四号末段ニ関シ

本邦視察團ノ顔振左ノ通

一、極東国民經濟會議長「スタリコフ」

二、財政全權「リーデマン」

三、農務庁長官「マビノフ」

四、交通全權兼烏鉄長官「スリユサレンコ」

五、「ザバイカル」鉄道長官「アルテモフ」

六、林業「トラスト」社長「マスレンニコフ」

七、採金「トラスト」社長「ペルイシュキン」

八、食料品「トラスト」社長「ポウエリヒン」

視察団一行の名簿について

付記

昭和二年十月十日付在ハバロフスク川角總領事代理より田中外務大臣宛(電報)第一九八号  
視察団員の変更について

ハバロフスク 発  
本省 10月8日前着  
第一九四号(至急)

在浦潮總領事發大臣宛機密第三九八号ニ関シ

予テ極執幹部会ニ於テ日露親善並ニ通商増進ノ目的ヲ以テ極東露有力家ノ本邦視察團計画アルヲ聞込ミタルニ付甚タ好マシキ企テナルモ入国上ノ手続アリ予メ一行ノ氏名職名等詳細一、二週間前通報方申入レ置キタル処七日極執幹部會議ハ国民經濟會議長、財政全權、農務長官、烏鉄長官、米作「トラスト」總裁、「ダリレス」社長、極東銀行頭取等左記十六名ヲ選定訪日団ヲ組織シ往復約一ヶ月ノ予定ヲ以テ十日当地發十二日乗船敦賀經由上京セシメタキ趣ニテ同日極執行政部長ヨリ査証方願出アリタリ  
就テハ早急ノ申出ナルモ団員ハ極東露ノ財政及ヒ經濟会ノ最モ有力家ヲ網羅シ身元確實亦化宣伝等ニ付容疑ノ点無ク入国差支ナント認メララルルモ何分ノ儀大至急御指図ヲ請フ

九、漁業「トラスト」社長「ケルネル」

一〇、米作「トラスト」社長「コシユカリョフ」

一一、極東銀行頭取「レウイタス」

一二、浦塩鉱務所長「ドリゴ」

一三、極東政策所長「コウアリ」

一四、水産試験所長「デルジャウイン」

一五、「スーセン」炭鉱技師「コロソ」

一六、土地改良技師「ルイシチンスキー」

尚団員中ニハ内務省側ノ心配スル職業組合常任委員一人モ無ク何レモ真面目ナル本邦商工業視察希望者ナルニ付為念申添ユ

浦潮ニ転電シ莫斯科ニ暗送セリ

(付記)

ハバロフスク 10月10日後発  
本省 10月10日後着

第一九八号

往電第一九五号ニ関シ

農務庁技師「チェルネツキー」ハ土地改良技師「ルイシチンスキー」ノ代リトシテ一行ニ加ハレリ

尚渡辺発閣下宛電報二五九号ニテ御承知ノ通右技師ノ外「ボウエリヒン」「テリネル」「レウイタス」「ドリゴ」「コハリ」「デルジャウイン」「コロソ」ノ七名計八名ハ浦潮ニテ査証ヲ受クル筈  
浦潮へ転電セリ

251 昭和2年10月(9)日 在ウラジオストック渡辺総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

極東ソ連産業関係部門本邦視察団に対する便  
宜供与依頼

ウラジオストック 発  
本 省 10月9日後着

第二五九号

閣下宛川角発電報一九四号ニ関シ一行ハ御知悉ノ通極東露ノ最高幹部員殊ニ我ニ最モ緊密ノ関係ヲ有スル漁業、農(米)業工業財務交通等各部長ニシテ中当地団員数名モ屢報ノ通常ニ我視察団ヲ厚遇シ来レルモノ故一行ニ対スル我方ノ待遇如何ハ直ニ我ノ将来ニ影響スヘキニ依リ彼等ハ党员ナルモ宣伝ノ目的ニアラスト認メラルルニ付至急入国御許可ハ素ヨリ此機ニ於テ関係当局及当業者ニ於テ彼等ニ可成

本 省 10月12日前発

第六七号

貴電第一九四号ニ関シ

関係ノ向ニ於テ準備ノ都合モアルニ付一行ノ本邦ニ於ケル旅行日程、視察又ハ觀光上ノ希望事項其他問合ノ上電報アリタシ

浦潮へ転電アリタシ

254 昭和2年10月15日 在ハバロフスク川角総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

視察団員の視察日程および希望等に関する回

答

ハバロフスク 10月15日後発  
本 省 10月15日後着

第二〇二号

貴電第六七号ニ関シ

訪日団長タル国民経済会議長「スタリコフ」初メ其他ニ付(問)聞合セタル処左ノ通

一、十九日浦潮乗船二十一日敦賀着一同上京後便宜一団又ハ数団ニ別レ視察観光内地ニ二週間滞在十一月五日敦賀

ク満足ナル視察上ノ便宜ヲ与ヘラルル様尚往々耳ニスル警察側ノ警戒振ノ為折角ノ一般好感ヲ害スルカ如キ事無キ様内務側ニ為念御注意方切望ニ堪ヘス一行中当地関係者ハ未タ「ハバロフスク」ヨリ何等通知ニ接シ居ラサル由ニ付十二日出発ノ予定ハ多分延期ト考ヘラルルモ執レ遠カラス実現ノ事ト思ハルルニ付及報告旁為念  
在露大使、ハバロフスクニ暗送セリ

252 昭和2年10月11日 堀田外務省欧米局長より  
山岡内務省警保局長宛

極東ソ連有力者視察団の本邦入国につき通報

欧一機密第一六五一号

本件ニ関シ在哈府総領事代理及在浦潮総領事ヨリ別紙甲号及乙号ノ通電報アリタルニ付委細右ニテ御了悉ノ上本件視察団員十六名ノ入国ニ関シ何分ノ御意嚮至急御示相成度此為申進ス

編 注 甲号は250文書、乙号は251文書参照

253 昭和2年10月12日 在ハバロフスク川角総領事代理宛  
(電報)

視察団一行の日程および希望等について照会

乗船帰国ノ予定

一、各専門ノ当路官憲及当業者ト懇談財政金融組織商工業施設欧米新式ノ設備ヲ採用セル工場就中魚類缶詰燐寸炭坑精米諸工場、造船所、水産農事農林試験場、諸市公共施設、其他極東露ノ産業復興ノ為機械及電氣化上参考諸事項視察希望

浦潮へ転電セリ

255 昭和2年10月15日 在ハバロフスク川角総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

視察団員に対する鉄道省等の便宜供与依頼

ハバロフスク 10月15日後発  
本 省 10月16日前着

第二〇三号

貴電第六六号ニ関シ(極東露領有力者ヨリ成ル本邦視察団ニ関スル件)

訪日団一行ノ内団長「スタリコフ」外七名ニ対シ十二日査証ヲ与ヘタリ更ニ商船隊代表「ムシユタコフ」一行ニ加ハリ団員総数十七名トナル(但シ内一名先発セリ)「ムシユタコフ」ハ浦潮ニテ査証ヲ受クル筈

累報ノ通一行ハ当地方政治商工業界ノ立物ニシテ殊ニ漁業協約及各種利権事業ノ運用ニ直接間接衝ニ当ル者ナリ加之当地方ニ視察来訪ノ知名邦人ニ対シテハ蘇連当局ノ歓待常ニ至ラサル無キニ鑑ミ此際当業者及関係官民ハ一行ニ対シ出来ル限りノ優遇ト便宜ヲ与ヘラルル様又倉知中里ニ対シテハ烏鉄カ専用車ヲ提供セル等ノ関係アレハ我鉄道省ニ於テモ此点ヲ考慮ニ入ルル様夫々其筋ヘ然ル可ク御口添テ請フ

浦潮へ転電シ莫斯科へ郵送セリ

256 昭和2年10月15日 山岡内務省警保局長より 堀田外務省欧米局長宛

視察団の入国に関する内務省の了承

警保局外発乙第二九九号

(10月18日接受)

昭和二年十月十五日

内務省警保局長(印)

外務省欧米局長殿

極東露領有力者ヨリ成ル本邦視察団ニ関スル

件回答

首題ノ件ニ関シ本月十一日付欧一機密第一六五一号ヲ以テ

御照会相成候趣了承容疑ノ点ナキ限り入国支障ナキ意見ニ有之候条御了知相成度

257 昭和2年10月16日 在ハバロフスク川角総領事代理より 田中外務大臣宛(電報)

主要視察団員の顔触れについて

ハバロフスク 10月16日後発 本 省 10月16日後着

第二〇五号

往電第二〇三号ニ関シ

団長「スタリコフ」ハ国民経済会議長トシテ国营企業及ヒ利権企業ヲ監督シ団員「マモノフ」ハ農務長官トシテ漁業事務ヲ兼掌「リイデマン」ハ財政全權トシテ当業者課税ヲ管掌シ邦人ノ企業着手ト資本輸入ニ興味ヲ有ス彼等ハ極東露ノ当局トシテ直接当業者ノ事業ニ甚大ノ関係ヲ有ス平素公正ナル見解ヲ持シ本官館務執行上多大ノ便宜ヲ供与シ今回石油石炭森林ノ団体成立ニ就キテハ尽力シ呉レタル関係モアリ本省ニ於テモ右考慮ニ入レ当業者ト御協議ノ上優待方可然御配慮ヲ請フ

尚「マモノフ」ハ沿海州米作合弁事業ニ付又「リイデマ

ン」ハ借款問題ニ付倉地幹事ト話合ヒタル関係モアリ渡日後自然是等問題ヲ持出ス事ト存セラルルニ付当該官憲並ニ当業者ニ御引合セ相成度シ

浦潮ニ転電シ莫斯科へ暗送セリ

258 昭和2年10月18日 在ハバロフスク川角総領事代理より 田中外務大臣宛

訪日に際しての視察団長談話

(10月31日接受)

公第三〇五号

昭和二年十月十八日

在ハバロフスク

総領事代理 川角 忠雄(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

本邦視察団長「スタリコフ」談話ニ関スル件

本件ニ関スル極執機関紙記事別紙ノ通茲ニ報告申進ス

本信写送付先 在露大使、在浦潮、亜港各総領事

(別紙)

本邦視察団長「スタリコフ」談話ニ関スル件

今回極東露経済界ニ於ケル指導者十八名ヨリ成ル視察団ハ

近々日本へ渡航スルコトニナツテイル

右視察団長ハ極東国民経済会議長「スタリコフ」テアルカ同氏カ今回ノ視察旅行ニ関シテ語ル処左ノ通

日蘇間ノ経済関係ハ年ヲ追フテ順調ナル発達ヲ遂ケツツアリ兩國ハ密接ナル経済関係ヲ有スル極東露林業及漁業ノ産物ハ主トシテ其ノ需要ト販路ヲ日本市場ニ見出シテイル

蘇連邦ノ国家機関ト日本ノ有力会社トノ間ニ於ケル経済上ノ関係ハ順調且強固テアル

蘇連邦経済機関ハ其ノ義務ヲ正確ニ履行シツツアルカ故ニ日本ノ商業金融界ニ信用ヲ得テイル日本カラノ輸入ハ極東露ノ経済発達ニ重要ナル意義ヲ有スル

例ヘハ極東露ノ漁業ハ全ク日本市場カラノ漁業用品其ノ他一切ノ供給品ニ依ツテ養ハレテイル様ナ次第テアル

其ノ他日本ノ資本ハ漸次利権ノ形テ極東露ニ投資サレツツアル

今日迄ノ処テハ樺太ノ石油石炭採掘並「オコツク」地方採金ノ各利権契約カ締結サレ又沿海州ノ森林利権モ締結サレ尚最近莫斯科テハ漁業協約ノ調印ヲ見ルニ到リ之ニ依ツテ極東露ノ漁業ヲ協同的ニ開発スルニ当リ円満且親善ナル状態ニ於テ行ハルルニ違ヒナイ

斯クノ如ク発達シツアル兩國ノ経済的關係ハ我々ヲシテ可成早ク我カ隣国日本ノ経済状態ヲ知ルノ必要ヲ感セシメ今回ノ視察団ヲ組織スルニ至ツタ訳テアル

視察団中ニハ極東露ノ商業財政交通公共事業等ノ指導者カ参加シテイル尚又同団体中ニハ極東露ノ各種経済界ニ直接衝ニ当ツテイル専門家モ居ル

視察団一行ノ希望トシテハ日本ノ有力家カ一行ノ為ニ日本ノ最モ興味アル企業ヲ直接紹介シテ貰ヒ度イコトテアル蘇連邦ト日本トノ間ニ順調ナル経済的発達ヲ遂クルコトハ更ニ両国ノ親善關係ヲ増進スル所以テアル

視察団一行ハ十月十九日浦潮港乗船先ツ敦賀ニ向ヒ直チニ上京シ其処カラ日本ノ主要都市並工業中心地ヘ向フ予定テアル

(昭和二年十月十五日 極執機関紙)

259 昭和2年10月20日 在ウラジオストック渡辺総領事より 田中外交大臣宛(電報)

視察団員中の学術専門家について

ウラジオストック 10月20日後発  
本 省 10月21日前着

ト云ヘリ多分一行ノ二十六日勢揃ハ困難ト思ハルモ右不取敢 莫斯科ヘ暗送セリ

260 昭和2年10月21日 在ウラジオストック渡辺総領事より 田中外交大臣宛(電報)

訪日視察団に関するソ連紙報道振り

ウラジオストック 10月21日後発  
本 省 10月21日後着

第二七八号

往電二七二号訪日団ニ関シ二十一日当地新聞ハ「日蘇親善ノ鞏固」トノ見出シニシテ当管区工業部長談トシテ大要左ノ記事ヲ載セタリ

吾人ハ日本商工業トノ接近ノ為メ従来好シテ我方ノ実情視察ニ応援シタルカ是相互間ノ経済提携兩國親交ノ道ニシテ最近中里社長ノ当地訪問ニ際シ余ハ「スタリコフ」等訪日団員ト共ニ我商工業状態ヲ案内セリ我訪日団ノ根本目的ハ今次ノ答札ニ依リ兩國ノ親善経済接近ヲ鞏固ナラシメ日本ノ発達セル工業就中米作業状態ヲ視察シ参考ニ資セントスルニアリ此ノ挙カ如何ニ経済上重要意義ヲ有スルヤハ団員

第二七七号

閣下宛川角電報第二〇六号ニ関シ

当地当局及当事者側ヨリ本官ニ申出モアリ内六名ハ本官ノ知合ナルヲ以テ査証手配中ナルカ視察団ハ川角電稟ノ通露側カ本年モ既ニ当地方ニ来レル我修学視察団ノ数団其他本邦遊歴者一般ニ対シ誠意歓迎アラユル便宜ヲ与ヘ来レル關係モアルニ依リ此ノ際至急入国許可勿論愈渡航ノ際ハ通関旅行視察上出来得ル限り便宜ヲ与ヘラルル様相願ヒ度シ教授連ノ担任専門家別左ノ通

「パンケウイチ」経済学

「サウイチ」植物学

「アグロノモフ」数学

「ガモユーノフ」海洋学

「オウイジョフ」日本語学

尚「アルセーニエフ」「サウイチ」ハ何レモ帝政時代ノ軍人ニシテ前者ハ人種学地理探險家トシテ知ラレ後者ト共ニ常ニ本邦ニ対シ好意ヲ有スルモノニテ此程「ソヴィエツト」灣哈府間ノ探險ヲ終ヘタルモノ(本年六月機密第二六一号拙信)小学校長「カコデイ」ニ関シテハ当局側ハ未タ不明

ノ顔振レノ語ル処ニテ之ニ依リ極東露ト日本実業界乃至国民間ノ将来ニ於ケル密接活発ナル關係ノ基礎ヲ為シ得ル次第ナリ云々 莫斯科、哈府ニ暗送セリ

261 昭和2年10月25日 長(廷連)兵庫県知事より 田中外交大臣宛

極東ソ連経済関係有力者の神戸訪問について

兵外発秘第三三五八号 (10月27日接受)  
昭和二年十月二十五日 兵庫県知事 長 廷連(印)

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣 田中 義一殿

指定庁府県長官殿

極東露領經濟部幹部視察団来神日程ニ関スル 件

労農連邦極東地方経済会議長「スタリコフ」ヲ首班トスル視察団ノ来朝ヲ機トシ対露貿易業者及關係商工業者間ニ於テ之カ歓迎方法協議中ノ趣本月二十二日付兵外発秘第三三四一号ヲ以テ既報ノ処神戸商業会議所ニ於テハ商工省及日

露協会ヨリ斡旋方依頼ノ次第モアリ一行来神ノ際ハ商業会議所及対露貿易協会主催ノ歓迎宴ヲ催ス外視察観光ニ際シテハ便宜ヲ供与スル筈ニテ一行中北海道方面ノ視察ヲ希望シ居ル者アル關係上未タ当地方視察希望者数其他決セサルモ予定日程ハ本月三十一日夕刻東京駅発列車ニテ西下途中京都奈良大阪等ニ立寄り十一月三日来神一泊視察ヲ遂ケ同五日敦賀発汽船嘉義丸ニテ帰国ノ予定ニ有之  
右及申(通) 報候也

262 昭和2年10月27日

沢田北海道庁長官より  
田中外務大臣宛

視察団員の函館等訪問について

付記

昭和二年十一月二日付沢田北海道庁長官より田中  
外務大臣他宛外甲秘第一六五二号  
視察団員の札幌・小樽訪問について

外甲秘第一六五二号

(10月31日接受)

昭和二年十月二十七日

北海道庁長官 沢田 牛麿

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣 田中 義一殿

記

一、本人等ノ談片

今回吾等視察団ノ貴国訪問ニ当リ浦潮出発以来各地ニ於テ種々便宜ヲ供与セラレ且ツ熱烈ナル歓迎ヲ受ケタルハ寔ニ欣快トスル所ナリ日露両国殊ニ極東露領ト貴国トノ経済關係ハ最モ密接ニシテ利害ノ影響スル所甚大ナルモノアリ  
今ヤ極東露領ニ於ケル各種事業ハ第二期改善施設ノ時機ニ入ラントスルニ当リ唇齒輔車ノ關係ニアル本道ノ各種産業ヲ視察シ以テ兩國ノ経済的進展ニ資セントス  
此意味ヨリシテ吾等兩名短時日ヲ利用シ本道ニ於ケル漁業其他ノ産業特ニ米作ノ状況ヲ視察研究スヘク来道セリ云々

二、道内視察日程(予定)

兩名ハ本月二十九日迄函館滞在各所訪問漁業状況視察ノ上同三十日頃札幌ニ赴キ北大同付属植物園農事試験場等ヲ視察シ約二日間滞札ノ後帰途余裕アル際ハ小樽ニ下車一日間滞留スヘシ  
而シテ如上ノ視察ヲ了ヘタル上ハ来月三日退道敦賀ニ至

農林大臣 山本悌二郎殿  
商工大臣 中橋徳五郎殿  
鉄道大臣 小川 平吉殿

各庁府県長官(東京府沖繩県ヲ除ク)殿  
極東露領有力者ヨリ成ル視察団員来道ニ関スル件

首題員

極東漁業トラスト代表(生産部長)

ウイクトル・エウケエウイチ・ケルネル (27)

浦潮地方土地局改良課長(技師)

兼浦潮極東大学教授

レオン・ベルナルトウイチ・チエルネツキ(44)

右兩名来道予定ニ関シテハ本月二十五日付本号既報(農商鉄各(貴)相ヲ除ク)ノ処本名等ハ昨二十六日午後十時着

連絡船ニテ日魯漁業株式会社取締役平塚常次郎ト同道来函在函館対露事業家及同市駐在「ソヴイェト」国営各機関勤務員等ノ出迎ヲ受ケ直チニ五島軒ホテルニ入りタルカ其ノ言動其ノ他左記ノ通り  
右及申(通) 報候也

リ視察団一行ニ会シ退却ノ意向ナリ

三、其ノ他視察団員ノ来道予定

本月十九日函館ニ於テ入国ヲ特許サレ同二十一日上京シ視察団一行ニ加ハリタル既報ノ太平洋水産科学研究所長「アレクサンドル・ニコラエウイチ・デルジャーウイン」ハ本月二十九日頃再ヒ来道シ高島町高島臨海実験所石狩孵化場ノ視察ヲ為ス予定ナリト

四、本人等ニ対スル歓迎方法

函館市役所同商業会議所ニテハ本人等ノ歓迎ニ関シ協議中ナルカ一部有志相集リテ本人等ヲ招待シ懇談会ヲ開催スル趣ナリト

(付記)

外甲秘第一六五二号(編注)

昭和二年十一月二日

北海道庁長官 沢田 牛麿

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣 田中 義一殿

農林大臣 山本悌二郎殿

商工大臣 中橋徳五郎殿

指定庁府県長官殿

「ソヴィエト」視察団員ノ動静ニ関スル件（統報）

首題員

極東漁業トラスト代表

ウィクトル、ケルネル

浦潮地方土地局改良課長

レオン・チエルネツキー

右兩名来札ニ関シテハ本月一日付本号既報ノ処本名等ハ昨日午後四時五十四分札幌駅発途中樽ニ下車シ同市北海ホテルニ少憩ノ上同日午後十時四十五分小樽駅発本二日午前六時四十分函館駅着直チニ五島軒ホテルニ入りタルカ本名等ノ札幌方面視察状況左記ノ通りニシテ容疑ノ点ナシ右及申（通）報候也

追テ本名等ハ明三日夜十二時函館発連絡船ニテ退道敦賀經由帰国ノ予定ノ趣

記

一、十一月一日午前十時二十四分札幌駅着直チニ当庁訪問北海道帝国大学ニ到リ水産専門部所属標本陳列室及農学部附属植物温室等參觀ノ上市役所並ニ商業会議所ヲ訪問

道ニ酷似セル点多キヲ以テ種子ノ撰択及播種方法等ヲ適当ニシテ米作ヲ為サハ必然的ニ好結果ヲ得ヘク從テ今回ノ視察ニ際シテ此種研究ニ力ヲ注キ居ルモノテアル目下沿海州方面ニ於テモ逐年米作モ進歩シ居ルト雖モ未タ猶幼稚ノ域ニアリ将来ハ耐寒性ノ稲ノ種子即チ当地附近ニテ使用スル種子ノ輸入ヲ為ス貴国北大農学部出身ノ少壯農業者ヲ専門家トシテ沿海州方面ニ招聘致シ度キ希望ニテ帰国後当路者ヨリ貴国農林省ニ右ヲ依存スル所存テアル露西亞ハ燕麦ノ良種アリ右種子ヲ道庁農事試験場ニ送付スルヲ以テ交換条件トシテ耐寒性稲種子ノ送附ヲ願度キ次第テアル」云々

三、当庁北海道帝国大学札幌市役所同商業会議所等ヨリ兩名ニ対シ水産並ニ農業ニ関スル統計資料（一般公表ノモノ）ヲ与ヘタルカ尚当庁ヨリ本名等ニ対シ在浦潮帝国領事經由ニテ稲種子送附予定ナリ

編注 北海道庁官発信にかかわる本件関係文書はこの番号に統一されている。

263 昭和2年10月27日 宮田警視總監より 田中外務大臣他宛

シ午後ハ農産物検査所中島公園拓殖館北大附属植物園等ノ視察ニ従事シタル後札幌市外琴似村当庁農事試験場ニ到リ約一時間余場内視察ノ上前記ノ如ク午後四時五十四分札幌駅発列車ニテ出發セリ

二、チエルネツキーノ談片

要旨

本邦視察ニ臨ミ各地ニ於テ便宜供与ヲ受ケタルヲ感謝ス本道視察ハ主トシテ米作研究資料蒐集ニアリトテ自國ニ於ケル燕麦種ト本道産稲種トノ交換ヲ希望シ居レリ

「自分等ハ各地ニ於テ視察ヲ為セルカ諸種ノ便宜ヲ与ヘラレ今回当札幌市ヲ訪問スルノ機会ニ接セルハ誠ニ本懐トスル処テアル而シナカラ予定日時モ余ス所僅少ナルヨリ細部ノ視察ヲ為シ能ハサルハ非常ニ残念至極テアル然シテ此ノ視察ニ依ル貴国ノ文明ヲ幾分ナリトモ輸入シタイ考ヘテアル

抑モ日露兩國関係ハ唇齒輔車ノ関係ニアリ殊ニ極東ノ開發ハ貴国ノ力ニ俟ツニアラサレハ其成果覚東ナカルヘシト思フ特ニ広大ナル地域ヲ有スル沿海州ハ氣候風土北海

視察団一行の動静並びに日程について

外秘第二六三八号

昭和二年十月二十七日

警視總監 宮田 光雄

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣男爵 田中 義一殿

農林大臣 山本悌二郎殿

指定庁府県長官殿

熊本埼玉各県知事殿

ソヴィエト視察団一行ノ動静並ニ視察日程ニ関スル件

- 1 入京以来日露協会其ノ他對露団体関係者ノ歓迎会ヲ受ケ居レリ
  - 2 各専門ノ関係方面工場其ノ他ヲ視察セリ
  - 3 二十八日ヨリ関西方面ノ視察觀光ヲ為ス予定
  - 4 一行中一部ハ来月五日帰浦スルモ一部ハ残留シ勞農大使館ニ於ケル革命十週年記念祝賀会ニ列席ノ筈
  - 5 格別容疑ノ点ヲ認メス
- 標題一行ノ来往ニ関シテハ本月二十二日外秘第二五九九号

既報ノ処一行ノ歓迎並ニ視察方面等ニ就テハ日露協会及ジャパントリーリストビューローカ卒先シ露領林業組合其ノ他各対露団体ト協議ノ上日程ヲ定メ主トシテ日露協会員関根齊一、同近藤正夫等ヲシテ其ノ斡旋ノ衝ニ当ラシメ居レルカ入京以来ノ動静並今後ノ視察日程左記ノ通りナリ尚一行ノ言動ニ対シテハ厳密注意中ナルカ格別容疑ノ点ヲ認メス

記

一、動静

二十二日

1 団長スタリコフ、リデマン、スリュサレンコ、マモノフ等幹部員ハ視察日程其ノ他ニ関シ日露協会員関根齊一、近藤正夫等ト協議ス

2 正午頃ヨリスタリコフ外幹部数名ハ労働大使館同通商代表部ニ赴キ渡来ノ際打合せ不十分ナリシ点ニ付諒解ヲ求メタル模様ナルカ次テ外務省農林省及後藤子爵ヲ訪問入京ノ挨拶ヲ述ヘタリ尚残余団員ハ各々自由行動ニテ銀座付近ノ散策其ノ他市内見物ヲ為シタリ

3 午後六時三十分ヨリ満鉄社主催ノ東京会館ニ於ケル歓迎会ニ出席シタルカ露国側十六名邦人側十五名ニシ

リ盛會裡ニ午後八時三十分無事散會セリ

3 スタリコフ外四名ハ午後九時ヨリ日露漁業会社主催ノ歓迎会ニ出席シタルカ邦人側八十名ニシテ席上余興トシテ獅子踊馬鹿囃等ノ演芸アリ午後十一時三十分無事散會セリ

二十五日

1 対露実業団体主催東京会館ニ於ケル午餐會ニ出席セリ

2 午後六時ヨリ北樺太石油北樺太鋳業兩社主催ノ芝公園紅葉館ニ於ケル歓迎会ニ出席シタルカ労働通商代表アニケーエフ総領事リグスキー等モ列席シ余興トシテ芸妓手踊支那人ノ手品等アリ盛會裡ニ午後十時無事散會セリ

3 浦塩市長ゴレイヒンハ日露協会員深見通訳ノ案内ニテ東京市政調査会及東京市電氣局ヲ訪問視察セリ

4 農務長官マモノフ技師チエルネツキー等ハ日露協会員近藤正夫ノ案内ニテ農林省農務局ヲ訪問視察セリ

5 林業トラス代表マステンニコフハ通商代表部木材主任デヴィヤトコフ同伴ニテ農林省王子製紙会社等ヲ

テ席上スタリコフノ謝辞アリ午後八時閉會次テ一同帝劇ヲ觀劇セリ

二十三日

極東銀行頭取レヴィタスハ通商代表部員レドニコフ案内ケルネル外六名ハ日露協会員近藤正夫案内スリュサレンコ外七名ノ交通関係者ハ川崎汽船会社露西亞課長戸塚太郎案内ニテ何レモ明治神宮上野公園其ノ他市内見物ヲ為シタルカ尚交通関係者八名ハ同夜川崎汽船会社主催ノ赤坂区田町清土料理店ニ於ケル晚餐會ニ出席セリ

二十四日

1 午後一時ヨリ露領林業組合主催ノ向島大倉男爵別邸ニ於ケル歓迎會ニ赴キタルカ通商代表アニケーエフモ列席シ一同歓談裡ニ午後四時十五分無事散會セリ

2 午後六時ヨリ日露協会主催ノ帝国ホテルニ於ケル晚餐會ニ赴キタルカ労働大使ドブガレフスキー通訳官スバルウィン通商代表アニケーエフ等モ列席シ邦人側ハ日露協会員及鉄道省関係者等出席シ合計八十六名ニシテ席上會頭後藤新平ノ挨拶ニ対シスタリコフノ謝辞ア

訪問視察セリ

二十六日

1 労働大使館主催午餐會ニ赴キ午後三時ヨリ商業會議所主催茶會ノ招待ヲ受ケ一部ハソヴィエト大使ト共ニ同午後六時ヨリ朝鮮銀行主催銀行集會所ニ於ケル晚餐會ニ出席スタリコフ、マモノフ外七名ハ通商代表アニケーエフ大使館一等書記官アスターホフ外四名ノ代表部員ト共ニ同午後五時ヨリ六時ニ亘リ王子製紙工場ノ作業狀況ヲ視察シ引続キ同製紙会社並日露木材会社主催ノ築地待合蜻蛉ニ於ケル歓迎會ニ招待サル

2 浦塩市長ゴレイヒンハ東京市水道局ノ視察ヲ為シ浦塩商船隊長ムシュタコフ及ドリゴハ日露協会員近藤正夫ノ案内ニテ内務省ヲ訪問技監関係事項ノ視察ヲ為シタリト

3 団長スタリコフ外十二名ハ露領水産組合ノ招待ニテ午後九時三十分上野駅発ニテ宇都宮ニ向ヒタルカ同地ヨリ自動車ニテ日光ニ赴キ金谷ホテルニ泊二十七日午後十時五十分上野駅着ニテ帰京ノ予定ナリ

二、今後ノ日程



紙ニシテ極東露代表新聞タルハバロフスク市発刊「チホオケアンスカヤズエズダー」紙ハ頃日来「日露関係鞏固」「訪日団大歓迎」ナル大活字見出ノ下ニ東京特派員來電トシテ訪日極東露大官ニ対スル本邦朝野ノ熱誠ナル大歓迎振日露協会露領企業団ノ盛大ナル宴会情況前例ナキ米原駅乗換ナシノ便宜及全国無賃乗車ノ特典ヲ供与セル我鉄道省ノ大優遇振ニ関スル記事並ニ極東露政治経済当局者ノ訪日カ本邦各階級ノ親露感情ヲ著シク高マラセ居ル事實ヲ指摘セル記事等ヲ何レモ紙上第一面冒頭ニ連載シテ当地方一般ノ感興ヲ唆リツツアルカ同紙カ最近來目立ツテ親日態度ニ一変シタルハ注目ニ値スヘキコトニシテツイ一年程以前迄往年ノ西伯利亞出兵ヲ想起シテハ我軍国主義ヲ罵倒シ或ハ帝國主義的對滿對支對露政策ヲ論難シテ我帝國ノ攻撃ニ憂身ヲ寢シ居リタル当時ヲ回顧スレハ転隔世ノ感ナキ能ハスコハ兎角西欧諸國ノ国交ニ円満ヲ欠ク蘇連邦カ苦シ紛レニ東方東亞諸國接近政策ヲトルニ至リタル結果トモ見ラルヘク今次ノ当地方大官ノ訪日モ或ハ中央ヨリノ指図ニヨルモノカトモ推測セラルスル政策ニ転シタル蘇連邦政府ノ魂胆如何ハ別トシ当地方露紙對日態度ノ良化ハ日蘇国交促進上

1 スタリコフ、リデマン、マスレンニコフ、ベルリイシキン、ボヴェリヒン、コウアリ、ゴレイヒン、レヴィタス八名ハ明二十八日大阪ニ向ケ出發スル筈ニテ途中スタリコフ、ボヴェリヒン兩名ハ静岡県下清水港ニ立寄り豊年油工場ヲ視察シ、マスレンニコフ、ゴレイヒン兩名ハ名古屋ニ立寄り浅野ベニヤ工場ヲ視察シタル後大阪ニ於テ一行ニ加ハリ神戸奈良方面ノ視察觀光ヲ為ス予定  
尚、マモノフハ來ル三十日退京大阪ニ赴キ一行ニ加ハルヘント謂フ

2 スリサレンコ、アルティモフ、ドリゴ、ムスターコフ四名ハ鉄道省ヲ訪問視察ヲ為シ二十九日午前七時五十分上野駅發ニテ埼玉県大宮工場ノ視察ニ赴キ翌三十日品川中野田端等ノ車庫ノ視察ヲ為シタル後同日午後九時十五分東京駅發ニテ大阪ニ赴キ先發一行ニ加ハル予定  
尚烏蘇里鉄道哈市派遣員ポルトラーク夫妻及カムシヤ三名ハスリユーサレンコ等ト共ニ鉄道関係視察ヲ為ス模様ナルモ或ハ行動ヲ別ニシ箱根熱海方面ニ赴クヤモ

知レスト而シテ一行ハ関西方面視察後來月五日敦賀出帆歸浦スル筈ナルモスタリコフ、リデマン、スリユーサレンコ、マスレンニコフ、レヴィタス、デルジャヴィン、ゴレイヒン七名ハ殘留シ関西ヨリ八幡製鉄所三池炭鉱等ヲ視察シ一旦帰京ノ上労働大使館ニ於ケル來月七日革命十週年記念祝賀會ニ列席シ更ニ京浜ノ視察觀光ヲ為シ來月十二日敦賀出帆歸國スヘント謂フ  
右及申(通) 報候

264 昭和2年10月29日 在ハバロフスク川角總領事代理より  
田中外務大臣宛

視察団に対する歓迎振りを伝えるハバロフスクの新聞記事

公第三二二二号

昭和二年十月二十九日

在ハバロフスク

總領事代理 川角 忠雄(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

訪日団歓迎振ニ関スル露紙記事ノ件

共産党極東支部極東地方執行委員会職業同盟極東支部機関

喜フヘキ現象ナリト思考ス

右何等御参考迄報告旁申進ス

尚訪日団動靜ニ関スル極東地方執行委員会機関紙記事切抜

ハ本月二十九日附公第三二二二号ヲ以テ送付済ニ付為念申添

ユ

本信写送付先 在露大使、在浦潮、亞港各總領事

265 昭和2年10月29日 宮田警視總監より  
田中外務大臣他宛

視察団の訪日目的等について

外秘第二六六七号 (11月1日接受)

昭和二年十月二十九日

警視總監 宮田 光雄

内務大臣 鈴木喜三郎殿

外務大臣男爵 田中 義一殿

指定庁府県長官殿

ソヴィエト經濟視察団ノ渡來事情ニ関スル件

ソヴィエト極東政庁要路者ノ一行多數カ渡來シ目下当地並各地方ヲ視察シ居レルコトニ就テハ屢報セルカ右一行ノ來朝事情ニ関シ伝ヘラルル所左ノ如シ

記

ソヴィエト極東方面ニ於ケル農産業状態ニ就テハ諸種ノ施設改善ヲ要スヘキモノアルモ目下ソヴィエト露国ノ内政ハ極度ノ財政難ニ陥リ居レルノミナラス対外的ニハ英米仏各国資本カ硬塞干係ニアル為之レカ救済ニ就テハ唯日本ニ信頼スル一途アルノミナルヲ以テ此際本邦資本家ト交歓ヲ重ネ本邦資本ノ輸入ヲ策セムトスル重要ナル目的ヲ有シ居レリ一面本邦対露事業家方面ニ於テモ帝政時代ニ比シ兎角円満ヲ欠キ不況ナル対露取引ノ現状ヲ有利ニ展開セムト希望シ専ラ一行ノ歓待ニ努メツツアリト謂フ

右及申(通)報候

266 昭和2年11月7日 市村(慶三)福井県知事より  
田中(外務大臣)他宛

マモノフ極東ソ連農務長官の帰国にあたって

の談話

外高秘乙第一〇八〇号 (11月9日接受)

昭和二年十一月七日

福井県知事 市村 慶三(印)

アンドレー・アンドレーウィチ・ムシュタコフ(三〇)  
在浦塩炭坑技師

ニコライ・ニコライウィチ・コロロン(三四)

以上二名ハ同日午前二時十八分着神戸ヨリ

在浦塩土地改良技師

レオン・ベルナルドウィチ・チャルネツキー(四四)

同極東漁業トラスト社長

ウイクトル・エフゲニエウイチ・ケルネル(二七)

以上二名ハ同日午前二時四十九分着直江津經由函館ヨリ

右七名ハ客月二十一日敦賀上陸浦塩ヨリ渡来セル本邦視察団中ノ一部ナルカ同人等其ノ後ノ動靜ニ付テハ各関係庁ノ通報並ニ北海道ヨリノ電報ニヨリ注意中頭書ノ列車ニテ来敦前二者ハ同地領事館ニ後四者ハ熊谷ホテルニ入り休憩午後三時出帆ノ嘉義丸ニテ領事館員町多数有志ノ見送りヲ受ケ浦潮ニ向ケ帰任セルカ一行中ノマモノフノ発シタル「ステートメント」左記ノ如クニシテ他ニ容疑ノ言動ヲ認メス

記

農務庁長官マモノフノ「ステートメント」

内務大臣 鈴木喜三郎殿  
外務大臣 田中 義一殿  
鉄道大臣 小川 平吉殿  
商工大臣 中橋徳五郎殿  
農林大臣 山本悌二郎殿  
各庁府県(沖繩ヲ除ク)長官殿  
樺 太 庁 長 官殿  
朝鮮、関東警務局長殿  
在哈爾濱内務事務官殿

極東露領有力者ヨリ成ル本邦視察団ノ先発一行帰任ノ件

在ハバロフスク極東農務庁長官

ペヨトル・チモフエウイチ・マモノフ(四〇)

同 極東採金トラスト社長

グリゴリイ・イワノウイチ・ペルイシキン(四二)

在浦塩極東製作所長

イワン・フェドトールウイチ・コワリ(四〇)

以上三名ハ本月五日午後十二時四十八分敦賀駅着東京ヨリ

労農商船艦隊極東支部長

我々一行ハ予テ憧レテ日本視察モ実現シ過般来東京大阪京都北海道神戸九州等ニ亘リ各専門的ニ種々ナル施設ヲ視察シ我々ハ先発トシテ本日他ハ十二日ニ御地通過帰任スル予定ニテ視察ノ感想トシテ幾多参考トナルヘキモノアリ此ノ日本ニ於ケル文化ノ進歩發達ヲ本国ニ輸入シ改善ヲ要スル義務アルモノト認ム又我々ハ敦賀市民ヲ始メ其ノ他各地ニ於テ熱誠ナル歓迎ト便宜トヲ受ケ衷心ヨリ感謝ニ堪ヘス其ノ結果ハ即チ日露兩國ノ親善力愈々密接ノ度ヲ増ス事ヲ確信スルモノナリ

今後日露親交ノ為日本ヨリモ視察団ヲ組織シ渡来アラムコトヲ希望ス今我々ハ日本ヲ去ルニ望ミ敦賀市民ノ健康ヲ祈ルト共ニ視察中覚エタル「アリガトウ」「サヨナラ」ノ言葉ヲ以テ御別レスル次第ナリ

267 昭和2年11月17日 在ウラジオオストク渡辺總領事より  
田中(外務大臣)宛(電報)

訪日視察団長の帰国談話記事について

付記

昭和二年十一月二十九日付田辺大阪府知事より

田中(外務大臣)他宛外秘第一六九八号

視察団長の訪日視察所感記事について

ウラジオオストク 11月17日後発

第二九六号

往電第二八五号兩訪日団ノ大部分ハ十四日帰来何レモ本官ニ対シ今次本邦ニテ受ケタル望外ノ歓待及ヒ視察上ノ援助ヲ深謝シ日本ノ進歩ヲ驚嘆シ居タルカ十六日当地機関紙ハ學術団側滞日中ノ優遇及ヒ満足ナル視察願末ノ記事ヲ又十七日ハ有力家団長「スタリコフ」ノ談話トシテ大要

「吾人ハ今回日本ノ朝野ヨリ非常ノ歓待ヲ受ケ其ノ周到ナル案内ノ御蔭ニテ短時日間ニ各般ノ状況視察ヲ遂ケ得タルカ出発ノ際ハ田中首相ノ招宴ニ与カリ一般ノ見送り又盛大ナリキ今次訪日ノ結果吾人ハ日本ト極東露ノ経済的密接關係鞏固ノ可能ト吾人カ從來西欧ヨリ供給ヲ仰キタル物資ハ独逸壞地利ノ如キ金融ヲ得ナハ之ヲ日本ヨリ輸入シ得ルノ確信及ヒ利権問題モ親シク諒解ヲ得タリ云々」ト掲ケタリ

莫斯科へ転電シ哈府へ暗送セリ

(付記)

外秘第一六九八号

(12月2日接受)

昭和二年十一月二十九日

経済会議長) リーデマン(極東財政部長) ボウエリヒン

(食糧トラスト社長) ゴリーヒン(経済委員) スリュサレンコ(ウスリ鉄道局長) レニウエタース(極東銀行頭取)

ノ諸氏及デルジャノヴイン教授モ加入サレテ居ツタ

本視察団ハ二十二日日本ニ到着シ十一月十二日迄滞在各地ヲ視察シタ团长スタリコフ氏ハ本社ノ記者ニ談ル処ニ依レハ我経済代表視察団ノ任務ハ日本経済界ノ視察並商工業者諸団体ト親交ヲ結フ為渡日シタノテアリマス彼国テ我視察団ハ最モ鄭重ナル歓迎ヲ受ケマシタ即チ日本各地ノ諸種ノ会社及協会カ我視察団ノタメ歓迎会ヲ催シタリ又鉄道省ニハ日本鉄道全線ニ亘ツテ無賃乗車ノ待遇ヲシタ事実ニ依ツテモ明カテアリマス

日本ノ各種会社カ我視察団ニ格別ノ便宜ヲ与ヘテ呉レタ特ニ後藤子爵及倉地氏カ主宰スル日露協会及我連邦ト直接通商上關係ヲ有ス利権獲得者並其等ノ会社ノ多大ナル援助カアツタノテアルソシテ我等ノ尤モ關係深キ鉄道及地方自治経済漁業等凡ニル産業者ト相接スルコトカ出来タ

我等ノ日本滞在ハ短期間テアツタカ各方面ヨリノ好意ニ拠リ各自各班ニ別レテ商工業ノ中心地テアリ港湾アル大都市

内務大臣 鈴木喜三郎殿  
外務大臣男爵 田中 義一殿  
指定各庁府県長官殿

極東露国有力者視察団員本邦視察感想ニ関スル件

本月十七日浦潮ニ於テ発行ノ「クラスノエズナーミヤ」紙上ニ「日本ニ於ケルソヴィエト経済代表視察团长スタリコフ氏ト会谈」ト題シ曩ニ来邦セシ同視察团长スタリコフノ左記訳文ノ如キ視察感想記事ヲ掲載ナシ居レリ御参考迄右及申(通) 報候也

記

日本ニ於ケルソヴィエト経済代表視察团长スタ

リコフ氏ト会谈

曩頃経済代表視察団ノ第一班カ日本ヨリ帰国シハバロフスクヲ通過シタ今度スタリコフ氏ヲ团长トセル第二班カ帰国シテ来タ此ノ第二班ハ我カ駐日ソヴィエト大使館ニ於ケル十月革命十周年記念祭ニ出席シタ為日本ニ一週間タケ残留シタノテアル第二班ニハスタリコフ(極東ソヴィエト国民

大阪府知事 田辺 治通

各地ヲ訪レ造船所冶金及製油工場電気局製鋼所澱粉工場其他各種工場炭坑等各方面ヲ視察スル事カ出来タ尚日光京都奈良ナト歴史的古蹟ノ称アル名所ヲ觀光シマシタ  
残留セル我視察団員ノ為特ニ日本艦隊根拠地トシテ有名ナル横須賀軍港及同港ノ兵器廠造船所目下数艘建造セラレツツアル船渠等ヲモ詳細ニ案内セラレタル後司令艦「長門」ニ招待セラレテ同艦幹部ハ艦内ヲ詳細ニ説明シテ呉レタ  
十一月六、七、八日ノ十月革命十周年記念日ニハ我等ハ我大使館ニ滞在シタ十一月七日ノ祭日ハ我視察団ハ大使ドブガレフスキート共ニ此ノ日ヲ祝賀スル日本政府ノ代表及外国各外交官達ヲ招宴シタ

我視察団ノ帰国ノ際即チ十一月十日田中首相ハドブガレフスキート大使及経済代表視察団員等ヲ招キ盛大ナル宴会ヲ催サレタ

我等ハ訪日ニ依ツテ詳シク日本経済界ヲ視察スルコトカ出来マシタコトハ極東並日本間ノ経済關係ヲ密接ニスル事ヲ疑ナイノテアリマス

今彼国ノ諸種ノ事業ヲ視察スルニ及ヒ今日迄西欧諸国ヨリ獲得シツツアツタ物資ノ数々ハ日本ニ於テモ製造セラレツ

ツアルコトヲ確認シマシタ我等カ独逸及壞太利ニ於テナン  
ツアルクレディットヲ提供シテ日本ヨリ此等ノ物資ヲ輸  
入スヘキ考ヘテアル是レニ依ツテ海上四十時間余ノ短時日  
ニ取引スルコトヲ得輸送費用上多大ノ利益ヲ得ルモノト信  
ス此外親善ナル契約ニ依リ諸問題カ解決スルコトカ出来ル  
テアラウ

268 昭和2年11月19日 在ウラジオストック渡辺総領事より  
田中外務大臣宛

訪日視察団帰国関係記事報道振り

公第四六七号 (11月28日接受)

昭和二年十一月十九日

在浦潮斯德

総領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

訪日団帰還ニ関スル新聞記事訳報ノ件

本件ニ関シ往電第二九六号ヲ以テ要報及置タル本月十七日  
当管区機関赤旗紙記事別紙ノ通り切抜添付訳報申進ス  
本信写送付先 在露大使、在哈府総領事代理

(別紙)

先般日本ヨリ哈府ヘ向ケ経済視察団第一班通過セルカ今回  
第二班モ該団長「スタリコフ」ト共ニ帰還セリ第二班ハ我  
大使館ニ於ケル十月革命十周年祭ノ為メ一週間居残りタル  
モノナリ

第二班ノ顔振ハ「スタリコフ」(極東国民経済会議長)「リ  
ーデマン」(極東地方財務部長)「パウイリーヒン」(食  
料トレスト社長)「ガリーヒン」(浦塩管区地方共済部長)  
「スリュサレンコ」(烏鉄長官)「レウイタス」(極東銀  
行支配人)「デルヂャウイン」教授

視察団ノ日本滞在ハ十月二十一日ヨリ十一月十二迄ノ二十  
一日間ナリ既ニ団長「スタリコフ」ヨリ吾カ記者ニ報セラ  
レタル如ク視察団ノ目的ハ日本経済状態ノ視察ト共ニ商工  
業界ト個人的關係ヲ結フニ在リ

以下「スタリコフ」談

吾人ハ日本ニ於テ最モ懇切丁寧ニ遇セラレタリ此ハ吾視察  
団ノ為メニ各種商社及組合等ニ依リ晩餐会ノ催サレタルニ  
徴スルモ且又鉄道省カ日本全土ニ亘ル無賃乗車ヲ許可セル  
ニ見ルモ明カナリ

個人商会モ一行ニ対シ特別便宜ヲ与ヘケレタルカ就中後藤

子、倉地氏ノ代表スル日露協会並ニ吾人ト直接貿易關係緊  
密ナル利権会社商会ノ援助ハ特筆ノ要アリ

視察団ハ興味ヲ寄セ居タル諸ユル工業企業即チ鉄道及共済  
組織漁業問題等ニ紹介サルルコトヲ得タリ

一行ハ短期間ノ日本滞在中ニ寄セラレタル特別配意ノ御蔭  
ヲ以テ別隊ニ分レ諸ユル商工業中心地及港灣都市ニ足ヲ停  
ムルヲ得タリ

吾人ハ造船所冶金製油工場発電所製鉄工場製米所炭坑等ヲ  
実地見学セリ又日光京都奈良等名所古蹟ヲモ訪レタリ

次ニ残留セン視察団第二班ハ特別厚意ニ依リ全日本艦隊碇  
泊中ナル横須賀軍港ヲ見学セルカ同港ニテハ目下数隻ノ軍  
艦建造中ノ造兵廠造船所「ドック」ヲモ観覧ニ供セラレ且  
ツ超弩級艦長門ニ招待サレ其將校ヨリ詳細ノ説明ヲ聴キタ  
リ

十月革命十周年記念祭ニハ大使館ニ在リテ十一月七日ニハ  
外交代表「ドウガレフスキー」氏ト共ニ日本政府代表及列  
国外交団員等ノ来賓者ニ応待セリ

出発前十一月十日田中首相ハ晩餐会ヲ催シ「ド」大使及経

濟視察団一行ヲ招待セリ団員ノ見送りハ盛大ナリキ

吾人ハ日本経済界ト其能力トヲ識ルヲ得タル今回ノ日本訪  
問カ必スヤ極東露ト日本間ノ経済關係ヲ強固ナラシムルニ  
益スヘキヲ信ス

各種企業調査ノ結果吾人ハ從來西欧諸国ヨリ輸入シ来レル  
各種ノ物資カ日本ニ於テ製造サレアルヲ知り得タリ依テ若  
シ独乙塊国カ与フル如キ金融ヲ得ナハ之等物資ヲ日本ヨリ  
輸入スルノ意義アルコトヲ確信スルニ至レリ蓋シ之ニ依レ  
ハ著シク時間ヲ縮少シ(日本トハ汽船四十時間ニテ交通ス  
ルヲ得)且ツ貨物積替ニ要スル諸費用ヲ節減スルヲ得レハ  
ナリ

右ノ外個人的会見ノ御蔭ニテ吾人ハ利権当業者トノ間ニ諸  
問題ノ諒解ヲ得タリ

269 昭和2年11月25日 朝鮮総督府浅利(三郎)警務局長より  
在中国芳沢公使他宛

ザバイカル鉄道管理局長の訪日視察報告

朝保秘第二六四六号 (11月29日接受)

昭和二年十一月二十五日

朝鮮総督府警務局長

- 在 支 公 使 殿
- 内 閣 拓 殖 局 長 殿
- 内 務 省 警 保 局 長 殿
- 外 務 省 亜 細 亜 局 長 殿
- 同 欧 米 局 長 殿
- 指 定 庁 府 県 長 官 殿
- 樺 太 庁 長 官 殿
- 各 道 知 事 殿
- 奉 天、吉 林、間 島 各 総 領 事 殿
- 各 派 遣 員 殿

日本視察帰来後貝加爾鐵道管理局長ノ感想ニ  
関スル件

首題ノ件ニ関シ哈爾濱派遣員ヨリ左記ノ通り受報候条御参  
考迄及通報候也

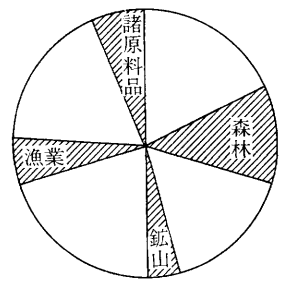
曩ニ日本視察ニ赴キタル極東ソウエト視察団員中後貝加爾  
鐵道管理局長アルテモフハ帰還ノ途次哈爾濱ニ立寄り本月  
十五日朝哈爾濱ソウエト領事館ニ於テ在哈ソウエト機関主  
腦者ヲ集メ日本視察ノ所感ヲ述ヘタルカ其ノ要旨左記ノ通  
ニシテ同人等一行ハ日本近代文化ノ進歩ノ状況ニ対シテハ

四、極東ソウエトハ中央政府ニ請イテ産工業ノ發達ニ要ス  
ル資金ヲ得ナクテハナラス

五、勿論日本ト競争ナントハ思モ寄ラス事テアルカ中央政  
府ノ最善ノ限固ニ於テ産業ノ發達ヲ図ルコトニ努力ヲ必  
要トスル

六、仮令ハ(図ヲ書キテ示シ)図ノ如ク線ヲ以テ現セル部  
分ハ今ソウエト側ニ於テ着手中ノモノテ白色ノ部分ハ未  
着手ノモノテアル

サレハ此白色ノ部分ハ大ニ日本ニ勸メテ日本ノ資本ニ依  
リ開發ヲ図ルヘキモノテアル



七、日本ノ資本ハ我方ヨリ協同的ニ提議セストモ自然ノ成  
行キトシテ必然的ニ注入シテ来ルテアロウサレハ我等ハ

驚嘆ノ声ヲ洩シ露西亞カ隣接日本ノ文化ノ進歩ニ付専門的  
視察研究ヲ怠リシ不用意ヲ遺憾トシ若シ現状ノ儘推移セン  
カ赤裸ニ突出セル極東カ日本ノ文化的侵略ヲ受クルノ遠キ  
ニアラサルヲ力説シ進テ日本文化ノ汲収ト溶合トニ努力シ  
寧ロ受動的態度ヲ廢シ積極的握手ヲ必要トスル旨ヲ述ヘ會  
衆ニ多大ノ感動ヲ与ヘタリト

記

一、一行カ日本ニ赴ク迄ハ全ク極東ノ現状ニ付テ睡眠状態  
テアツタコトカ今回日本ニ到着シテ初メテ判明シ漸ク眠  
ヨリ醒メタ

二、日本ノ産業工業ノ進歩發達ハ到底吾人ノ夢想タニモ及  
ハヌモノテアツタ無論極東ソウエト領内ノ夫ニ比較スヘ  
クモナイ吾人ハ今更ナカラ我領内ノ現状カ幼稚極マルモ  
ノナルコトヲ痛感シタ

三、若シ何等改善ヲ図ラスシテ推移センカ極東ソウエトハ  
永久日本經濟界ノ奴隸的地位ニ置カレルテアロウ

此際我方ヨリ進シテ協同的ニ握手ヲ示スニ於テ却而我方  
ニ利益スル所カアルモノト信スル然レトモ若シ放任シテ  
其ノ注入シ来ルニ委センカ我等ハ結局拱手垂涎ノ外ナキ  
モノトナルテアロウ

八、今ニ於テ已ニ日本ノ産業工業ノ發達程度ハ我等ノ材料  
品ヲ必要トシツツアル然シ數年後ニ至レハ此必要程度カ  
愈々増加スル從ツテ日本ハ何等カノ手段ニ依リ事實上我  
極東ノ原料品ハ日本ノ利用スル所トナルテアロウ

サレハ今ニ於テ日本ト握手ヲ求メ彼ノ放資ヲ乞フハ賢明  
ノ策テアル

九、極東ノ經濟ト軍事トハ兩者共危機ニ瀕シテ居ルカ然カ  
モ經濟方面ハ目睫ノ間ニ迫リ軍事上ヨリモ一層警戒ヲ要  
スル

一〇、故ニ我等ハ二方面ノ準備ヲセネハナラス

一ハ中央政府ヲシテ為シ得ル範圍ニ於テ資金ヲ極東開發  
ノ為支出セシムヘキコト及日本ノ資金ヲ招来セシムルコ  
ト二ハ日露国交ヲ一層親密ナラシメ速ニ特別通商条約ヲ  
締結スルコト  
而シテ日本ノ対米感情ハ各種ノ避戰的緩和の方法ヲ講シ

ツツアルモ而モ内面相当深刻ナルモノアルカ如シサレハ吾方ハ之ヲ利用シ対米態度ヲ以テ日本ニ対スレハ日本トノ交渉ハ案外速ニ進捗スルヲ得ルテアロウ尚一方沿海州ヲ開放シテ浦塩ヲ対日原料品特別輸出港トスルノ必要カアル云々

因ニ最近ソウエト外務及通商両省ニ於テハ「日本ノ政治経済一覽」ト題スル参考書ノ編輯ニ著手シタルカ右ハ一九二八年七月一日発行ノ予定ナリト而シテ之カ編輯担当者ハ左ノ如シ

経済 在莫斯科東方商業會議所副議長 ホドロフ  
政治 雜誌東方亜細記者 ウイレンスキー・シビリヤコフ  
外交文書 外務次官 カラハン  
写送付先 総督、政務總監、殖産局長、御用掛、内務局長

270 昭和2年11月25日 在ハバロフスク川角総領事代理より  
田中外務大臣宛

訪日視察団への歓迎振りに対する反響  
機密第三六四号 (12月7日接受)

昭和二年十一月二十五日  
在ハバロフスク

供与セル鉄道省視察旅行ニ対シ有ラニル助力ヲ与ヘ呉レタル日露協會横須賀海軍工廠及軍艦長門ノ參觀方ヲ斡旋セル中里中将其ノ他各種団体及個人ノ厚意ヲ大イニ多トセリ日本商工業ノ実情視察及当業者トノ個人的連絡トヲ全フシタル今今カ今後益々日蘇ノ経済提携ヲ鞏固ニスヘント確信シ各種工場並商業施設ヲ実地ニ視察シテ其ノ模範ナルニ驚キ施政上参考トナリタルコト尠カラスト打明ケ又是迄遠隔ノ西欧諸国及米國ヨリ輸入シ来レル品物カ日本ニ於テ製造セラレ居ルコトニ氣カ付キ必要ノクレヂットサヘ提供アラハ此等諸国ニ対スル註文ヲ或ル程度迄日本ニ振替ヘル可能性アルヲ仄メカシ他方日本工業ニ必要ナル鉄鋸骸炭及木材等常ニ不足勝ノ農産物例ヘハ米家畜等ノ対日輸出ニモ考慮ヲ払フ必要アリト説キタリ最後ニ実地ノ視察及当業者ノ直接折衝カ懸案ノ解決並経済提携ニ最モ必要ナル故日本ヨリノ当地方視察団ノ渡来ヲ大イニ歓迎ス云々ト述ヘタリ

是ニヨツテ之ヲ觀レハ今回極東露幹部ノ訪日視察ハ日蘇當業者ノ事務的關係ヲ密接ニシタルノミナラス彼等ニ通商發展ノ方向ト其ノ改善ノ余地ヲ知ラシメ兩國経済提携助長ノ

総領事代理 川角 忠雄(印)  
外務大臣男爵 田中 義一殿  
我官民ノ極東露経済団及教育団歓迎ニ関スル件

極東露経済団及教育団ニ対スル我官民ノ熱誠ナル歓迎情况ハ極東地方執行委員会機関紙「太平洋洋星」ニヨリ親日感情ヲ唆ル見出ヲ付シ又ハ写真ヲ掲ケ極東露全土ニ報セラレ之カ為同地方一般官民ノ対日感情ハ滅切良化シタルノ感アリ實際ノ接待ヲ受ケタル団員ノ満足ハ言ハスモカナ当地当局者ノ喜ヒ又一段ナリハバロフスク管区執行委員会議長ベトロフノ如キハ革命十周年祝賀大会ニ於テ演説中極東露経済団ニ対スル我國ノ大歓迎振ヲ聴衆ニ伝ヘ衷心満足ナリト絶叫シタル程ナリ

視察団ノ一部ヲ引率シテ一足先ニ帰還セル前農務庁長官新任極執委員会副議長マモノフハ曩ニ極執機関紙上ニ本邦旅行ノ感想ヲ発表シテ我厚情ニ痛ク感激スル所アリタルカ之ニ次イテ近日帰哈セル团长極東国民経済會議議長スタリコフモ同紙上ニ視察旅行ノ結果ヲ公表シ我國各方面ノ空前ノ大歓迎ニ対シ满腔ノ謝意ヲ表スルト共ニ無賃乗車ノ特典ヲ

効果ヲ齎ラシメタルモノト思考セラル

271 昭和2年11月30日 在ウラジオオストック渡辺総領事より  
田中外務大臣宛

訪日視察団歓迎に対する反響について  
機密第四九一号 (12月13日接受)

昭和二年十一月三十日  
在浦潮斯德

総領事 渡辺 理恵(印)  
外務大臣男爵 田中 義一殿  
極東露有力家訪日団ノ影響ニ関スル件

曩ニ本邦ヲ訪問シタル当地方経済界及学术界ヨリノ二有力家視察団カ我官民ヨリ受ケタル厚遇乃至視察上ノ便宜ニ対シ当事者及一般社会ニ与ヘタル好影響ニ関シテハ拙電(二八五、二九四及二九六号等)電報並在哈府川角總領事代理屢次ノ詳報ニヨリ既ニ御知悉ノ通りナル処右訪日団ノ中先着學術団一隊代表トシテ当地大学「アグロノモフ」及「ガモユーノフ」兩教授ハ帰着早々又後着同团长「パンケトウイチ」教授ハ同大学総長「ウオログヂン」博士同道態々本官来訪団員一行本邦視察中我朝野ヨリ受ケタル一般厚遇殊ニ

東京ヲ初メ京坂地方各地ノ学术界有力者ヨリ懇切周到ニ与ヘラレタル視察上ノ便宜ニ対シ深謝ノ意ヲ表シ其筋ヘレカ伝達方ヲ申出テ本邦文物ノ顕著ナル発達殊ニ學術ノ進歩ヲ激賞シ学界ヲ通シテ両国福利ノ共進共栄ヲ期シ度キ旨ヲ述ヘタリ又經濟視察団当地側代表格ノ当管区共済部長(旧市長格)「ガリーヒン」モ帰来本官來訪同シク今回本邦朝野ヨリ受ケタル非常ノ款待優遇深謝ト同時ニ之ノ視察ニヨリ勞農側カ本邦ニ学フヘキ処勸ナカラス經濟提携ノ実現兩國親交増進ノ可能ヲ直覺シタル旨ヲ語り本官ヨリ本邦各關係ノ向殊ニ東京市当局ノ与ヘタル本人今回視察上ノ尽力ニ対シ謝意伝達方申出居タリ而シテ彼等団員ハ帰来各自其關係官公衙乃至党諸派機關等ニ於テ報告講演ヲナシ新聞ニモ既報ノ通り発表シタルヲ以テ当地方一般ノ対日感情空氣良

### 3 その他文化交流

272 昭和2年2月25日 幣原外務大臣より  
在ソ連邦田中大使宛(電報)

繪画展開催に關シ日露協会の經費負担は困難な現状について

本省 2月25日後発

第三七号  
往電第三五号ニ関シ

日露協会主事ノ語ル処ニ依レハ本件展覽会ノ主唱者タル日露芸術協会ハ經費ナキ為最近日露協会ニ主催方懇請シ来リタル趣ノ処同協会ニ於テモ經費問題ノ為引受ヲ躊躇シ居ル模様ナリ

又一方「ソヴィエト」大使館ニテハ日露芸術協会ヲ信用セス同芸術協会ノ本件展覽会主催ニハ賛成シ居ラサル由ナリ右御参考迄尚右様ノ次第ニ付本件展覽会ノ実行方ニ付テハ露国側主催者ヲシテ十分本邦主催者ト連絡ヲ保チ間違ラ生セサル様御注意相成様致シタシ

好ニシテ本官ノ執務上ニモ概シテ好影響ヲ与ヘタルノ感アリ要之這次之等有力量ノ本邦訪問ハ各自専門当事者間ニ実務上相当好果ヲ収メ得タルヘク殊ニ我方ノ待遇カ勞農側一般ニ非常ノ満足ト感謝ヲ与ヘタルハ今後ノ兩國親交乃至經濟提携ノ實現上効果尠ナカラサルモノアルヘキハ近来ノ欣快事ト被存今ヤ久原經濟特使ハ露都ニ入り後藤子爵ノ訪露亦近ク實現サレント伝ヘラル彼我兩國有力家ノ來往ハ益々相互關係ヲ密接ナラシムルモノアリ我國利ノ増進上慶ハシキ事ト被存

右及報告  
在露大使、在哈府總領事代理、在哈市總領事、  
在亞港總領事

273 昭和2年2月28日 在ソ連邦田中大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

繪画展の準備状況並に日露協会の協力に關するソ連側主催者の期待について

モスクワ 2月28日後発  
本省 3月1日前着

第八七号  
貴電第三七号ニ関シ

当地主催者ニ注意ヲ与ヘタル処昨年一氏氏当地ニ旅行ノ際對外文化連絡協协会会长「カーメネフ」夫人ヨリ「ソ」連邦現代画家ノ作品展覽会ヲ日本ニ於テ催シタキモ經費問題ノ為実行ヲ躊躇シ居ル旨語リタルニ一氏氏ハ金ノ方ハ日本ニ於テ何トカナルヘントノ約言ヲ与ヘタルモ其ノ後何等ノ消息ニ接セサリシ為文化協会側トシテハ之ヲ当ニセサル事トシ文部委員部ヨリ經費ノ貸付ヲ受ケ他方日本ノ方ハ在本邦大使館「スベールビン」ト連絡ヲ取り準備ヲ進メ居ル次第ニシテ三月三日作品ノ審査ヲ終リ次第荷作發送ノ手筈ナリ尤モ日露協会ノ如キ信用有ル機關ノ精神的援助ハ大ニ望ム